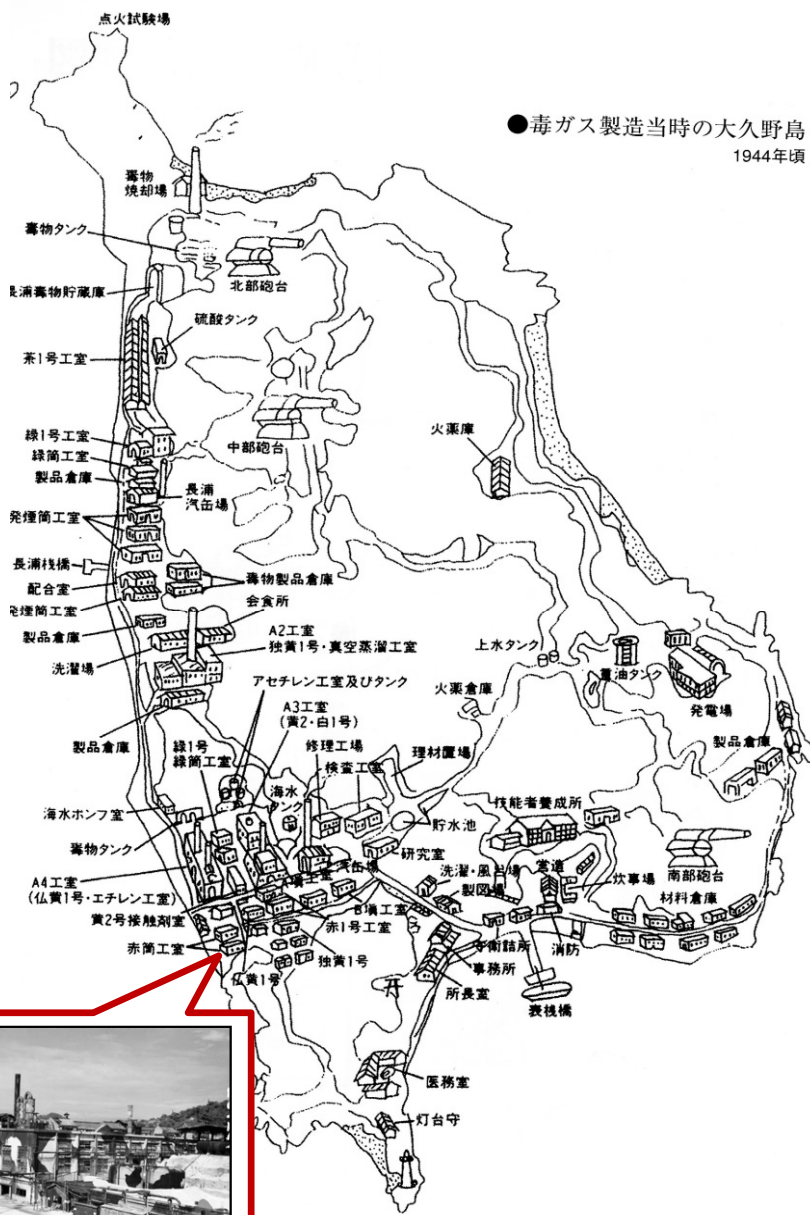


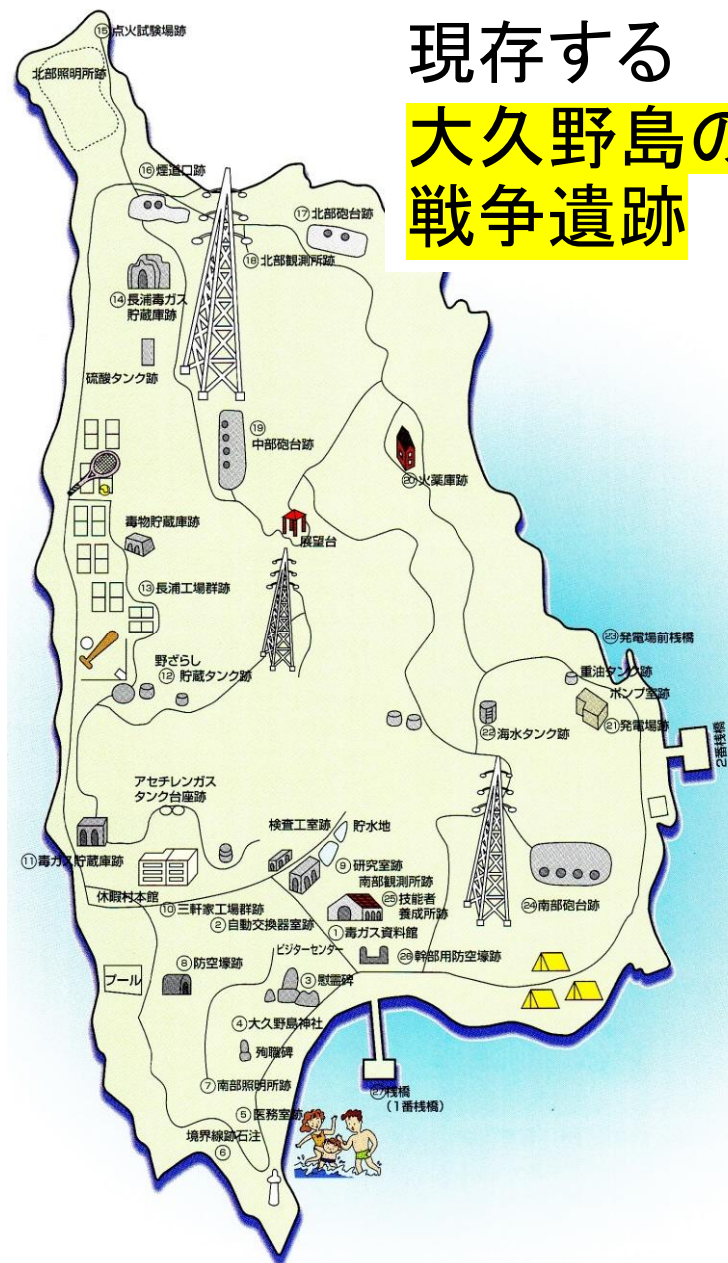
大久野島の毒ガス工場遺跡が語る戦争の被害と加害

→戦争中の大久野島毒ガス工場配置図



三軒家毒ガス工場地帯

→現在の休暇村大久野島(国立公園)



現存する
大久野島の
戦争遺跡

日本陸軍の化学兵器製造の始まり

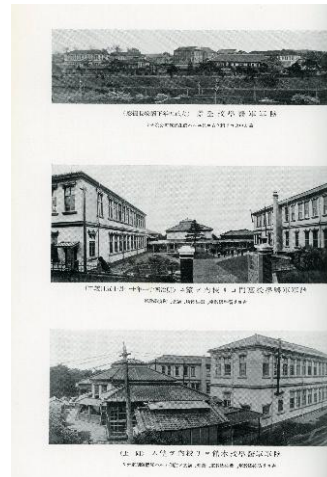
- 1917年10月 陸軍軍医学校に毒瓦斯研究室を新設
- 1918年 5月 陸軍省に「臨時毒瓦斯調査委員会」を設置
- 1919年 4月 陸軍技術本部に陸軍科学研究所を設置
- 1922年 陸軍科学研究所に化学兵器研究室を設置



陸軍科学研究所跡
(東京都新宿区百人町)

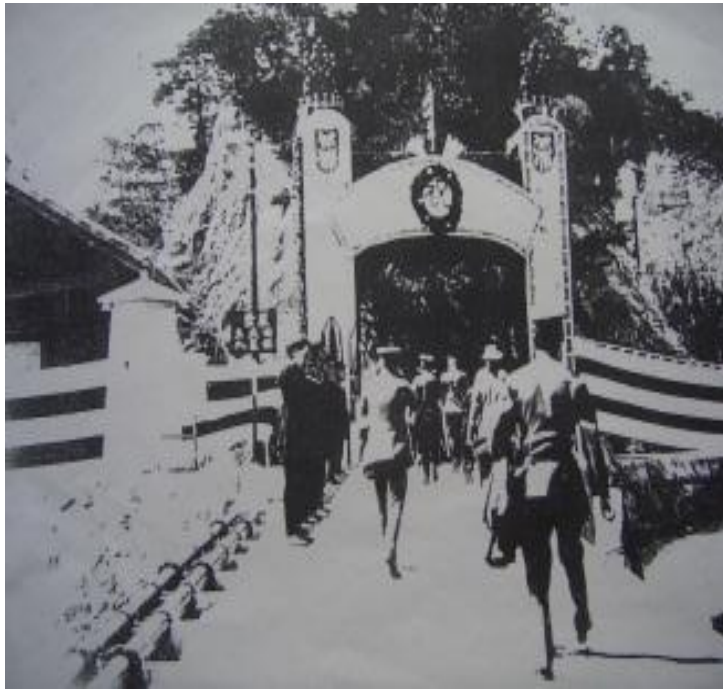


陸軍軍医学校跡
(現在の国立感染症
研究所のあたり)
※1929年移転後



**1917年当時の陸軍
軍医学校**
(靖国神社に隣接
した区域)

新宿から大久野島に陸軍の毒ガス工場が移転して来た



陸軍造兵廠火工廠忠海兵器製造所開所（1929年）



全国35カ所の候補地から大久野島が選ばれた



大久野島で製造された毒剤と化学兵器



中赤筒（くしゃみ
性ガス）← など

投下弾 → など



迫撃砲弾 ← など

忠海製造所で製造した主要毒ガス

名 称	化 学 式	性 質	外観・におい	主 要 原 料	軍名称
イペリット	$(\text{ClCH}_2\text{CH}_2)_2\text{S}$	びらん性 持久性	黄褐色粘液性 の液体、から し臭	(仏式) エチルアルコール・ 一塩化硫黄・塩素・ 四塩化炭素 (独式) グリコール1号・塩酸 (仏式) 黄号乙と同じ	黄1号乙 黄1号甲 黄1号丙
ルイサイト	ClCHCHASCl_2	びらん性 持久性	淡黄色の粘液 性の液体	カーバイト・硫酸・食塩 亜比酸・三塩化アルミニウム	黄2号
ジフェニール シアンアルシ ン	$(\text{C}_6\text{H}_5)_2\text{ASCN}$	くしゃみ性 (窒息性) 一時性	淡緑色の固体	シモリン・塩酸 青化ソーダ・亜硫酸ソーダ	赤1号
青 酸	HCN	中毒性	微褐色の液体 苦扁桃油臭気	青化ソーダ・硫酸	茶1号
塩化アセトフ ェノン	$\text{CH}_2\text{ClCOC}_6\text{H}_5$	催涙性	微黄色の固体 芳香性刺激臭	ベンゾール・三塩化燐 モノクロール醋酸・三塩化 アルミニウム	緑1号

ホスゲン (COCl_2) 窒息性：初期のみ保土ヶ谷化学より購入して砲弾填実した。

忠海製造所では製造していない。

(化学式は中村照彦氏資料)

大久野島には全国から毒ガスの原料や中間製品が持ち込まれた

表 10 陸軍の毒ガス原材料とその納入企業

毒ガス	原材料	納入企業
きい一号甲	グリコール一号	日本曹達・三井鉱山
	塩酸	昭和曹達
	食塩(不純ソーダ灰)	三井鉱山
	硫酸	尾崎染料・住友化学
	ソーダ灰	大阪 岸田・清多
きい一号乙	四塩化炭素	南海化学・日本曹達・昭和曹達・三共
	液体塩素	晒粉販売会社
	一塩化硫黄	保土谷曹達・日本曹達・昭和曹達・南海化学
	アルコール	地方専売局
きい一号丙	グリコール二号	三井鉱山
きい二号	カーバイド	東京菱三商会〔日本曹達・原田商店・三井物産〕
	亜砒酸	日本鉱業・三菱鉱業
	食塩	地方専売局
	〔硫酸〕	〔住友化学〕
あか一号	CA剤(シモリン)	三井鉱山・日本染料
	重亜硫酸ソーダ	大阪晒粉・日本重化学工業
	シアンナトリウム(青化ソーダ)	保土谷曹達・日本曹達・昭和電工・鉄興社
	ヨードカリ	大阪広栄
みどり一号	三塩化燐	保土谷曹達・日本曹達・南海化学
	一塩化酢酸	保土谷曹達・日本曹達・三井物産
	三塩化アルミニウム	小西・日本合成化学
	二硫化炭素	南海化学
	ベンゾール	八幡製鉄
発煙剤	硝酸アンモン	日本窒素・日清商事
	塩化アンモン	岸田・清多
	亜鉛華	関西ペイント・日本ペイント・三共
	亜鉛末	三共・本荘・□田
筒加熱剤等	三硫化アンチモン	金井・小西
	アルミニウム粉	清多

- 中間原材料が民間会社で生産され、大久野島の工場で反応させて毒ガスにする方式が取られた。**三井・三菱・住友など財閥系列の化学関連会社が軍の毒ガス生産を支えていた。**
- 宮崎県高千穂町**土呂久鉱山**(富士重工系列会社)や島根県津和野**笹が谷鉱山**(日本鉱業・現ジャパンエナジー)で産出される**亜ヒ酸**が納入され、**ルイサイト・くしゃみ性ガスの製造に使われた。**
- 京都高山化学陶磁器KKから**土管**や**蛇管**が納入された。
- 南海曹達高知工場は仏式イペリットに製造材料として不可欠な**四塩化炭素**の製造を一手に引き受けていた。

化学兵器の研究に大学の学者が動員された

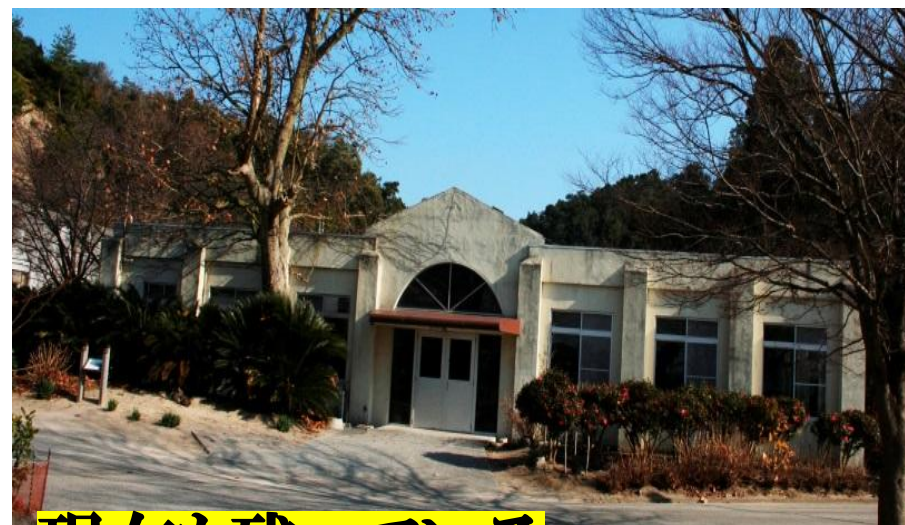
新宿の第六陸軍技術研究所から大久野島に研究員が派遣されていた

表1 戦時研究員に参加した科学者と研究担当内容

東部班	班長東大（薬学）朝比奈泰彦：一般統制
	東大（薬学）石館守三：新毒研究
	東大（応化）牧鋭夫：新毒研究
	東大（解剖学）小川鼎三：毒効力
	東大（血清学）緒方富雄：毒効力
	東大（植物）田宮博：毒効力
	東工大（染料）林茂助：新毒
	東工大（窯業）河島千尋：青酸合成装置
	東北大（化学）野村博：砒素系・アミン系新毒
	東北大（化工機）八田四郎次：化学装置
	北大（化学）堀内寿郎：青酸合成
西部班	班長阪大総長真島利行：一般統制
	阪大（化学）小竹無二雄：青酸製造
	阪大（化学）赤堀四郎：新毒
	阪大（化学）千谷利三：新毒
	阪大（化学）村上増雄：新毒
	京大（化学）野沢龍三郎：新毒
	京大（応化）小田良平：新毒
	京大（薬理）萩生規久夫：毒効力
	阪大（応化）八浜義和：フラン系毒物
	理研々究員（化学）田村国三郎：新毒研究



敗戦直後の
大久野島化学兵器研究室跡の建物



現在も残っている
化学兵器研究室跡の建物

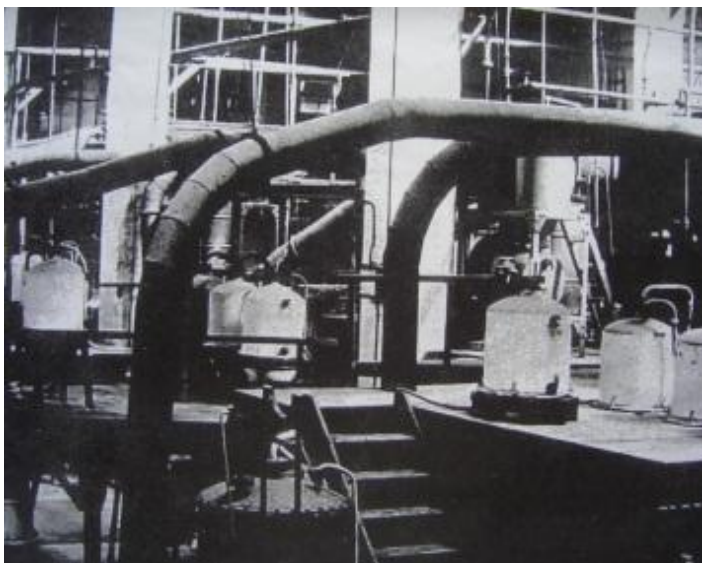
大久野島毒ガス製造作業は大変危険な作業だった

○毒ガス剤の製造は24時間体制で行われた。

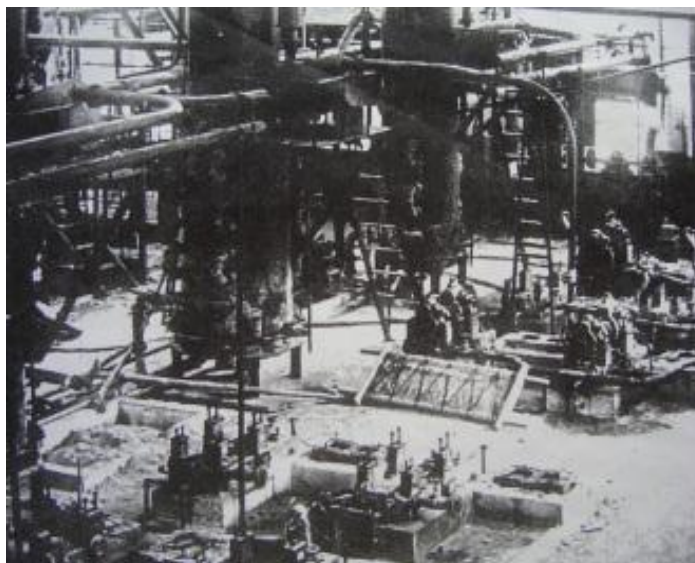
毒剤製造工員は13時間労働・昼夜の交代制で働いた。

○イペリットなど猛毒ガスの製造は全身ゴムの**防護服**を着て作業を行った。

○毒ガス傷害が重くなると**医務解雇**された。



ルイサイト製造工室



イペリット製造工室



防毒服

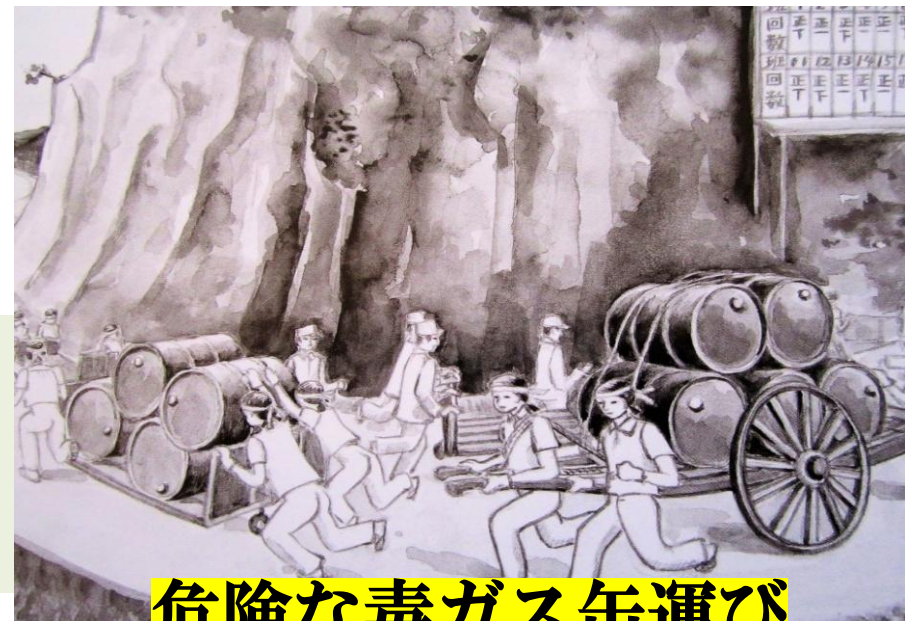
大久野島毒ガス工場に動員された人々・・・約6,600人

一般民間人の動員



忠海高等女学校の生徒

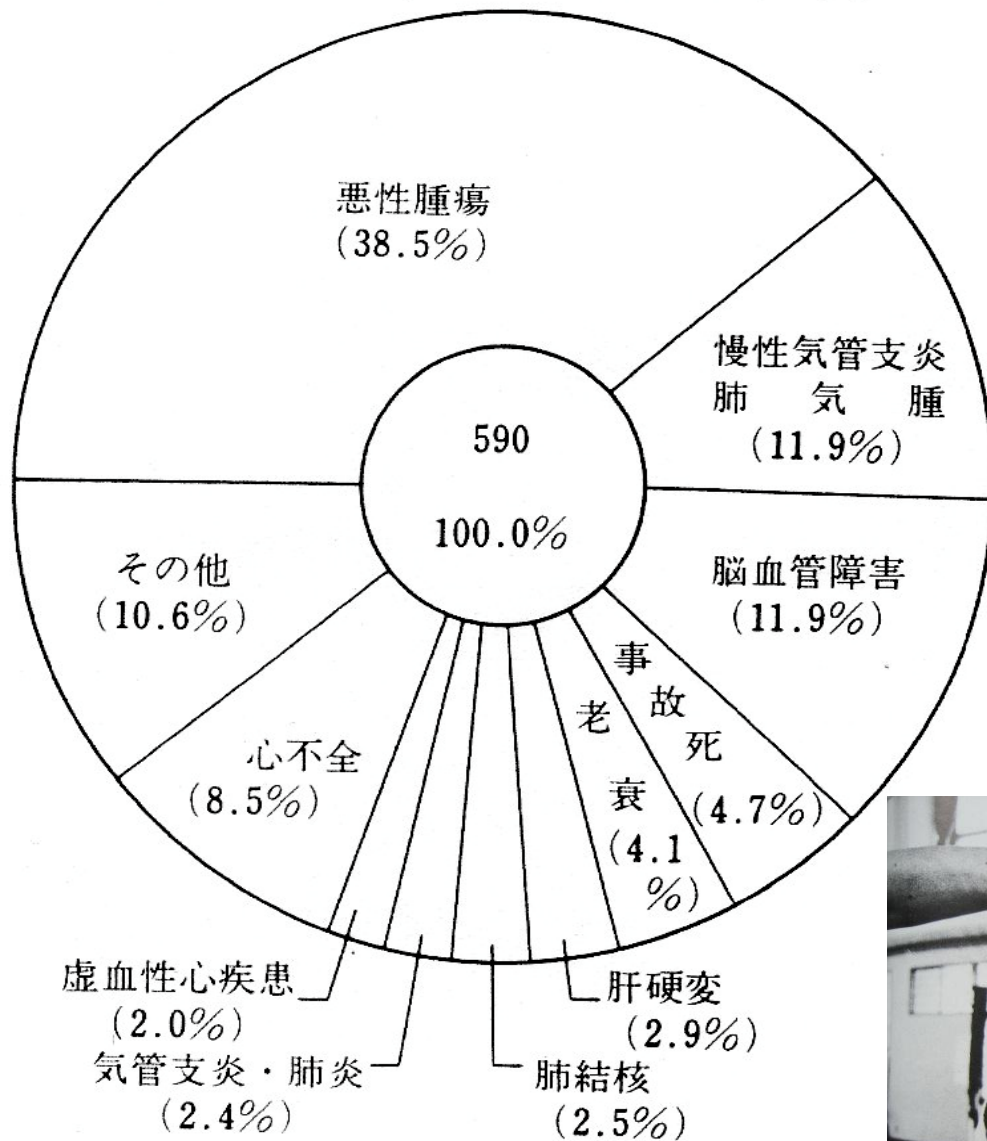
- ☆ 1938年女性が奉仕隊として動員された
- ☆ 1940年技能者養成所創設製造工員の養成
- ☆ 1941年徴用令：青年が動員された
- ☆ 1943年学徒動員 中学生・女学生の動員



危険な毒ガス缶運び

大久野島で働いた人の90%以上が毒ガス傷害を受けた

毒ガス傷害者男子工員の主要死因



びらん性毒ガスによる皮膚障害



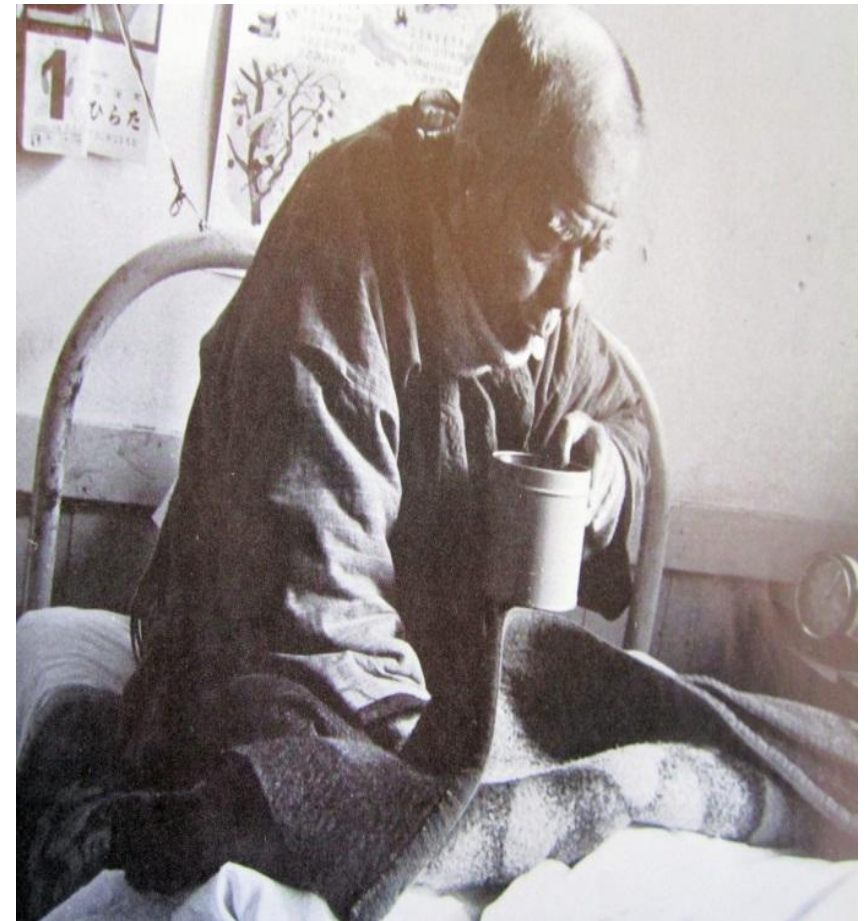
慢性気管支炎に苦しむ傷害者



日本政府は大久野島毒ガス傷害者を援護せず放置した。

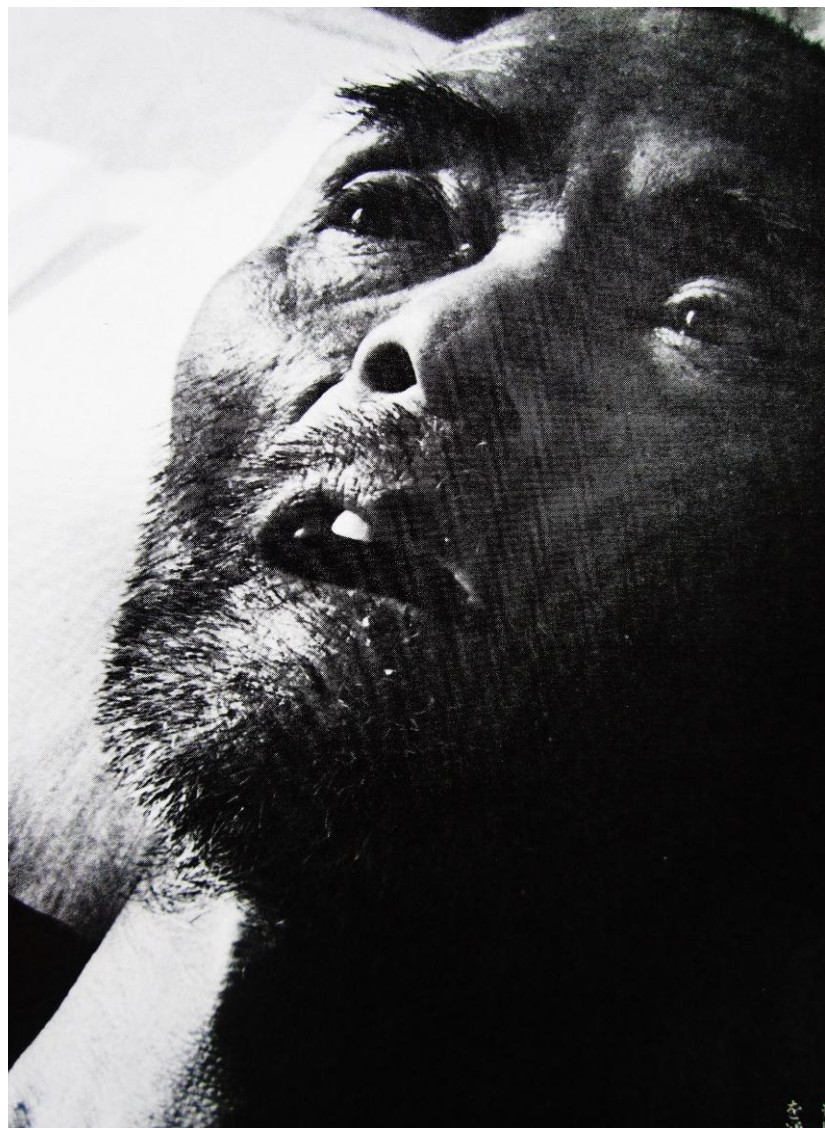


慢性気管支炎や癌で亡くなる人が多い。



やっと1954年「ガス障害者救済のための特別措置要綱」を出した。

敗戦後79年、毒ガス傷害者援護法は制定されていない。



しかし、われわれ被毒者は時代が違っていたとはいえ国家総動員法等により強制的に毒ガス製造に従事させられたことによる被毒障害であり原爆被爆者とはおかれていく立場が根本的に異なり、国の責務は一層明らかでありますので、毒ガス障害者に対する国家補償の精神に基づいた画期的な援護対策の確立は急務であります。

つきましては、これらお事情をご賢察のうえ、当面次の「大久野島毒ガス障害

大久野島毒ガス障害者援護対策要望書

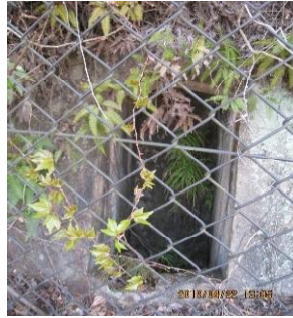
大久野島毒ガス障害者対策連絡協議会

被爆者援護法と同じような**毒ガス傷害者援護法**の制定を求めている。

現存する毒ガス工場時代の遺跡が被害・加害の歴史を伝えている。



発電場跡



煙道口跡



毒ガス研究室跡



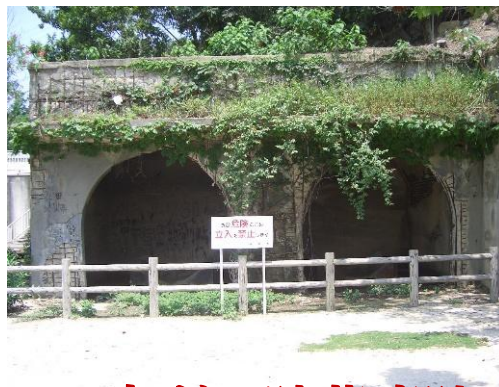
長浦毒ガス貯蔵庫跡



殉職碑



工場と灯台の境界のコンクリート柵



毒ガス貯蔵庫跡



幹部用防空壕跡



検査工室跡

遺跡を保存し、毒ガス被害・加害の歴史の継承が大切である。



火薬庫跡



冷却用海水タンク



南部砲台跡・毒ガス貯蔵庫跡



通信壕



陶器の毒ガス製造器具



砲台跡と毒ガス貯蔵タンク台座



毒ガス貯蔵庫跡



中部砲台跡・毒ガス缶置き場



医務室跡の消火栓

毒ガス傷害者や地域住民が大久野島毒ガス資料館をオープンした。



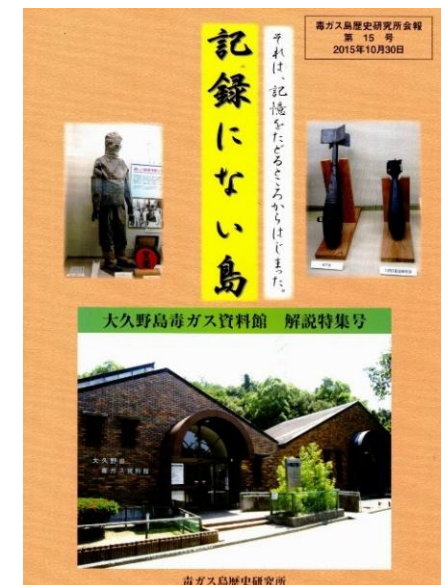
敗戦時、日本軍は証拠隠滅のため、毒ガス兵器や毒ガスを中国大陸の海・河・湖に投棄したり、地下に埋設したりしました。その遺棄毒ガスが戦後、平和に暮らしている中国人の生活を脅かす事件が続いています。河の浚渫工事や建物の建設工事などで、突然出てきた遺棄毒ガスが人々を殺傷しているのです。終戦から今まで、中国における、日本軍の遺棄毒ガスによる死者は2000人を超えていると言われています。

中国の遺棄毒ガス問題と遺棄毒ガスが発見された場所や保管されている場所を地図で示しています。

化学兵器禁止条約によって、日本が遺棄した毒ガスの処理は日本が行う義務があります。それにもとづいて日本政府は、発見され保管されている毒ガスの回収・処理を行っています。十分には進んでいません。

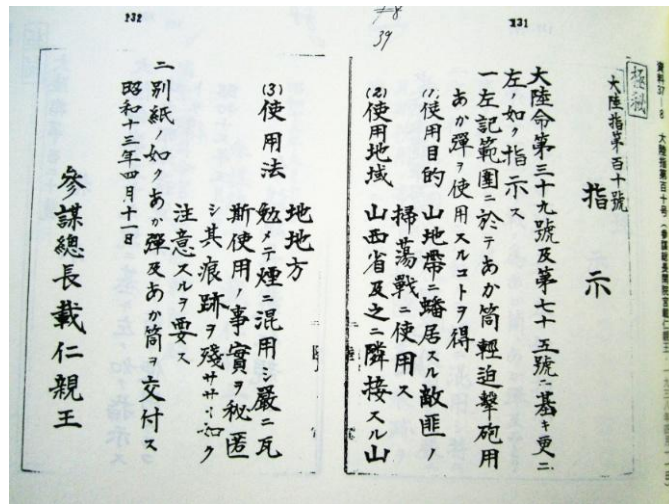
多量に遺棄され、まだ見つからない毒ガスをどうするかという重大な課題が残っています。

23



大久野島で製造した毒ガスは国際条約に違反し戦争で使用された。

→ 毒ガス使用の命令書



上海で毒ガスを使用している日本軍

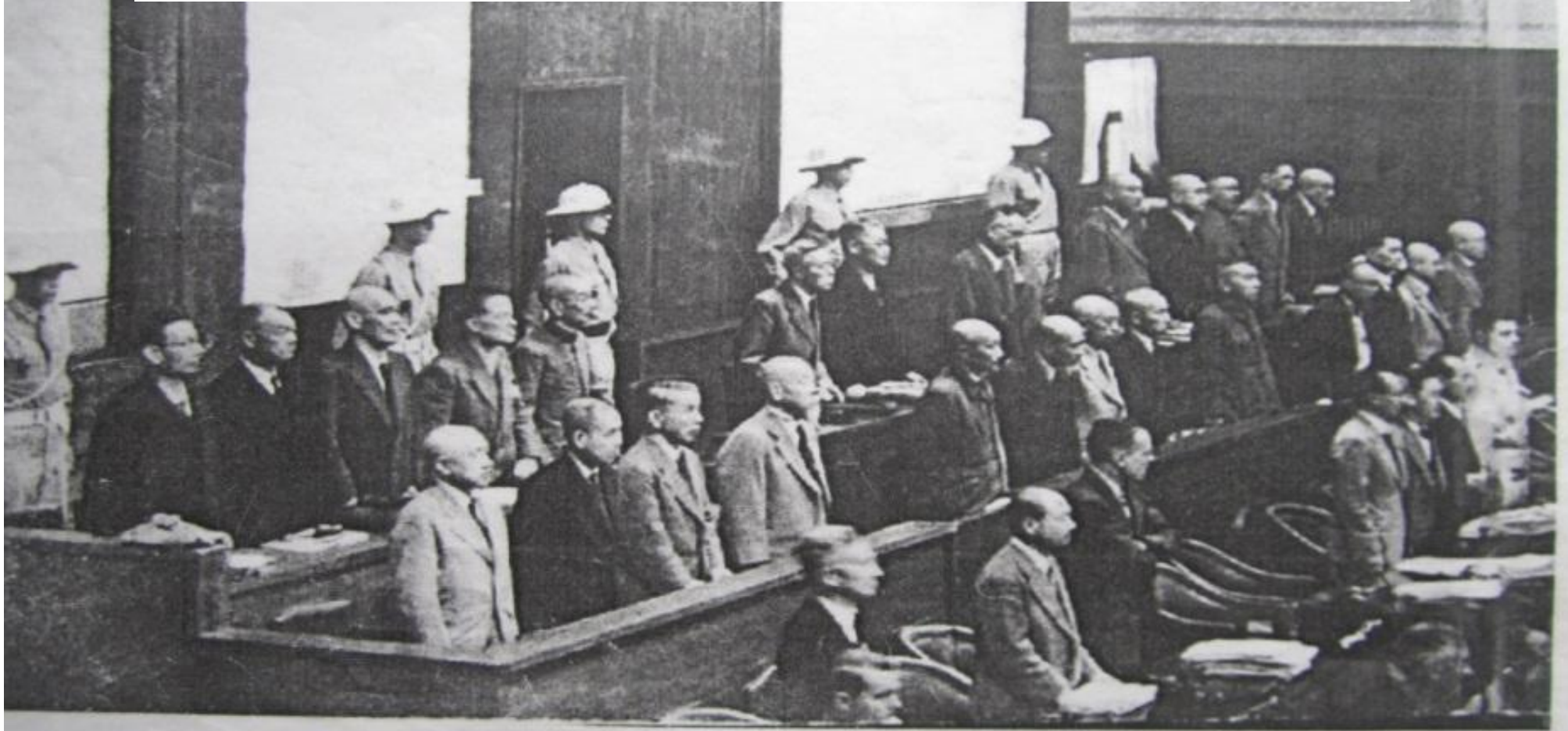
→ 一九八三年日本軍の毒ガス使用の証拠資料を米国公文書館で発見した新聞報道



1939年 中国の村を毒ガス攻撃する日本軍

日本の国際条約違反の毒ガス使用は裁判で裁かれなかった。

しかし米国が自国の国益に反するとして裁判から外した。



1946年

極東国際軍事裁判（東京裁判）

日本政府も毒ガス使用の事実を公表せず、被害者への謝罪も賠償もしていない。

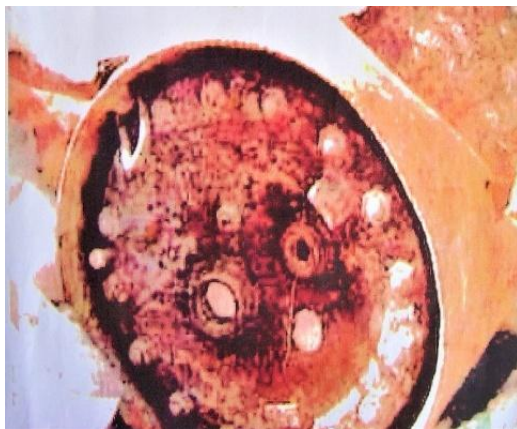
敗戦時、日本は証拠隠滅で毒ガス兵器を中国に大量に遺棄した。



中国国内の日本軍が遺棄した場所

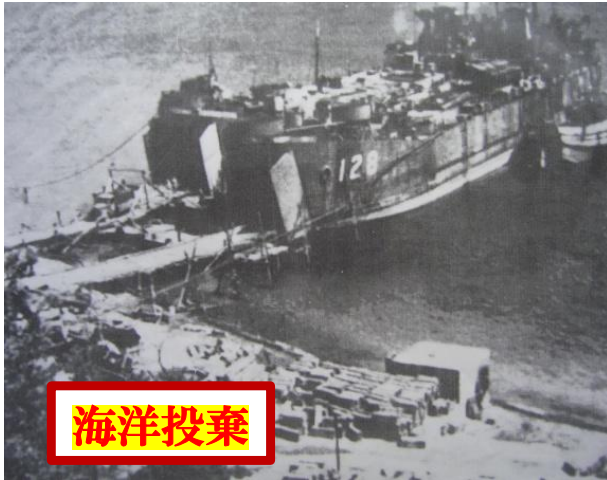


日本軍の遺棄毒ガス中国人被害者



遺棄した毒ガスが中国で多くの被害者を出し、現在も苦しめている。

大久野島や周辺に保存してあった毒ガス剤や毒ガス兵器は敗戦後、連合軍の指示のもと処理された。



海洋投棄



工場の焼却



防空壕へ埋設

たくさんの毒ガス剤や毒ガス兵器が海洋投棄され、一部は大久野島の島内に埋設されたままになっている。

大久野島ヒ素汚染が発覚、汚染土の除去工事が行われた。

中国 98. 9. 23 (第三郵便物認可)

来月からヒ素汚染土撤去 大久野島

3分の2が立ち入り禁止

旧日本陸軍の毒ガスの原料のヒ素に汚染された土壌が問題になっている。竹原市沖の大久野島で、環境庁は来月にも高濃度の汚染土壌の撤去工事を始める。掘削工事の開始にあたり島の三分の二が立ち入り禁止区域となる。

ヒ素汚染土壌の島外撤去・五島までの表土約三千五百ヘクタールは四ノッラ工事は、一九九五年の調査で環境基準値（水一リットル当たり）を超えた。また、今年一月から県が「リ・〇・〇」の二二二層工している島側護岸の百歳の汚染が見つかった。改修工事で掘削した土の動機西護岸は基準値の三、環境基準を越えたヒ素十倍を超えた。場所が併せて処理するため、島外第三方面で、深最七七併せて処理するため、島外

テニスコートや外周道路使えず

汚染土の撤去工事が始まる大久野島



国はヒ素除去工事終了後、大久野島の「安全宣言」を出しました。

埋設されたままの毒ガス弾(赤筒)の一部の写真



島内に埋められている毒ガス弾をそのままにしての「安全宣言」は地域住民には納得できませんでした。



配布された環境庁のパンフ

その後も、遺棄毒ガス兵器の残骸が相次いで発見された。



**1999年3月にホテル前で
大赤筒9個発見**



**1999年8月中赤筒の
残骸3個発見**

汚染の可能性のある毒ガス工場の跡地なども十分調査されていない。

島内に埋設されている毒ガスの**完全処理**と大久野島の**環境汚染**の徹底的な調査を日本政府と広島県と竹原市に要請しました。

環境庁・内閣官房内政審議室への要請

一九九九年十二月七日

99
12/8
中国新聞

大久野島の毒ガス兵器 遺棄調査と廃棄要 環境庁などに市民団体

スの「中あか筒」が、見つかつた問題で、地元市民団体「毒ガス島歴史研究所」は七日、環境庁と総理府を訪れ、島内の遺棄化学兵器の確認調査と完全廃棄を要請した。

研究所の村上初一代表ら十人は環境庁で、「戦後、六十五万発の化学兵器が島内に埋設処分されたとの記録があるが、すべての所在や安全性は確認できず、あか筒やヒ素が今も繰り返しかつてゐる。政府が戦

た。環境
期的な
質監視
たが、
や廃棄
連合国



要望書は受け取っても**何ら具体的な
取り組みはしてもらえなかった。**

茨城県の神栖で旧日本軍の毒ガスの原料であるヒ素による被害者が出てから、2004年から大久野島の飲料水は三原市から給水船で運んだものが使用されるようになった。

2000年茨城県の神栖で毒ガスの原料のヒ素による被害発生した。



大久野島に飲料水を運んでくる給水船

大久野島の環境汚染は戦後80年を迎える現在でも未解決である。

原因不明の運動障害／同じ住宅街で次々



茨城 神栖町と黒崎出

旧日本軍の化学兵器か

「井戸水」医師が気づく



被害者Aさんと
息子さん

2009年に大久野島に送水する水道工事を計画したが 工事中に**遺棄毒ガス弾**の残骸が発見され中止になった。

2009年(平成21年)6月21日(日曜日)

大久野島沖の毒ガス兵器？

クリック

大久野島の毒ガス工場
1929年、旧陸軍造
兵廠(しよつ) 火工廠忠

海兵器製造所として開所
した①「さい1号」と
呼ばれたびらん性のイヘ
リット②催涙性の「みど
り」③くしゃみ性の「あ
る」

かーしを製造した。
米太平洋陸軍の資料に
よると、総生産量は原液
状態で6616リットルに上
る。



竹原市大久野島沖の海底で新たに見つかった不
審物。毒ガス兵器の可能性ある＝6月2日
(撮影・高橋洋史、呉海上保安部が地域航行警
報を出している海域外を潜水取材)

竹原市大久野島の沖合海底に不審物が約15個あること
が20日までに、中国新聞の潜水取材で分かった。化学兵
器の専門家は「形状から毒ガス兵器の可能性がある」と
指摘している。今年1月、毒ガス兵器とみられる鉄塊が
見つかった海域の付近。旧日本軍の毒ガス工場があった
島周辺に、数多くの不審物が沈んでいる実態が浮かぶ
(毒ガス問題取材班)

本紙潜水
取材で確認
あか筒の可能性

今月2日、大久野島
北側約600mの沖合で潜
水取材をした。環境省
の海底送水管敷設事業
に伴う調査で今年1
月、不審物約20個が見
つかり、呉海上保安部
が地域航行警報を出し



竹原市
忠海
大久野島
休眠村
大久野島

潜水取材海域
地域航行警報海域

実線内は、新たに不審物約15個が潜水取材で見
つかった海域。点線内は今年1月、不審物約20
個が発見され、地域航行警報が出ている海域

(1) 16版 第41320号 (明治25年5月30日)

毒ガス弾？放置

海底送水管敷設を中止

環境省 4億円余既に投入

旧日本軍の毒ガス工に四億三千五百万円を
場があつた竹原市大久野島沖で一月、毒ガス
弾とみられる不審物がうと説明するが、事
見つかつた問題で、環 前調査の不足など毒ガ
環境省が島に海底送水管 弾に対する問題意識
を敷設する工事を中止 の薄さが、多額の税金
したことが九日、分 を無駄にする事態を招
った。事業費として既に

海底送水管の敷設工 衛省のところが処理を
事に入る直前の一月十 するの、法的責任が
九日、海底磁気探査で あいまいなことを背景
不審物が見つかった。 に宙に浮いたままだ。
連絡を受けた海上自衛 多額の税金を費やし
隊が「化学兵器の疑い した事業を中止した理由
がある」と写真で判断 について、環境省中国
したが、四カ月近くな 四国地方環境事務所
った今も、環境省と防 転用も検討し
(岡山市)は「二帯に 難な見通しだ

は他にも不審物
に残っている
ある」と強調
一トの変更で
きないという
千万円かけて
送水管は別の
転用も検討し
難な見通しだ

大久野島は戦争が終わって78年経過した現在でも毒ガス製造による
環境汚染を抱えたままです。一度破壊された自然は元には戻りません。

大久野島の毒ガスによる戦争被害・加害は終わっていない。

戦後80年 大久野島の毒ガスの課題は山積している。

- 中国の毒ガス被害者に対する謝罪と補償
- 中国に遺棄してきた化学兵器を早急に回収・処理。
- 中国に遺棄してきた化学兵器による環境汚染
- 大久野島毒ガス傷害者援護法の制定
- 日本国内に遺棄された化学兵器の処理、
- 国内に遺棄された化学兵器による環境汚染



現在、中国政府の協力を得て日本が中国に遺棄した毒ガスの処理が行われています。

国境を越えた友好交流こそ平和の礎

中国遺棄毒ガス被害を学ぶ旅 中国東北部訪問(1997年)

中国東北部訪問(1997年)の模様を伝える記事の抜粋。

中国・毒ガスの旅

「負の歴史」心に刻み帰国
周辺は畑管理に甘さ

地中に眠る遺棄弾

大久野島で製造した毒ガスが被害を出している実態を学ぶ。



被害者李国強さんを招請(1998年) 広島と竹原で証言集会を開催

1998. 8. 16 (日) 中国新聞

遺棄毒ガス 終戦53年

救済意思示さぬ国
補償に市民の関心薄らぐ

置きりの被害者

李国強さん竹原証言集会

李国強さん



大久野島で製造した毒ガスが被害を出している実態を学ぶ。

中国遺棄毒ガス被害者と20年間の友好交流

日本軍の毒ガス攻撃を受けた河北省北担村で謝罪と講演



2010年教育交流会で
大久野島毒ガスの歴史の講演



2025年4月3日北担村の
李欣友さん宅にて交流

2004年 霊園で追悼式

南京大虐殺記念館での学習と友好交流

2004年 記念館で謝罪と追悼式



屠杀30万同胞遇难70周年
佳同胞纪念馆扩建工程竣工

2007年12月13日

南京大虐殺70周年式典参列



2016年
大久野島の毒ガスについて証言と講演



藤本安馬

山内正之



2015年南京大虐殺式典参列

多大な命の犠牲上に生まれた日本国憲法を守ろう。

世界の人と平和に生きる



どこの国の国民も

戦争は望んでいない。

日本国憲法は戦争をしない
ことを決めている。

日本憲法のもと日本は七十九年間
戦争をしなかった。

戦争放棄の政治をこれからも続け
なければならぬ。